

科目名	医療倫理学特論	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	服部健司	単位	2	必修・選択	選択

目的	広義の医療倫理の領域において一義的に正しいとされる答えの定まらない問題を考え抜く力を養う。
学習到達目標	知識の習得や原則の適用の術を磨くのではなく、日常のなかで埋もれている倫理問題に気がつくための問題発見的な感受性を身につけ、さらにその問題を批判的・反省的に考えることができるようになる。
成績評価方法	授業への参加態度および授業後のミニレポート

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	医療倫理学	医療倫理学とは何か	服部健司
2	感性の多様	シュヴァンクマイエル 『庭園／肉片の恋』	服部健司
3	ケース・スタディ（1）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部健司
4	「全人的医療」	医学の目的、「全人的医療」がはらむ問題	服部健司
5	ケース・スタディ（2）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部健司
6	守秘義務	プライバシーと守秘義務	服部健司
7	ケース・スタディ（3）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部健司
8	インフォームドコンセント	インフォームドコンセントのゆらぎ	服部健司
9	ケース・スタディ（4）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部健司
10	患者の意思の自由と自律	パターンリズムと患者の自律	服部健司
11	ケース・スタディ（5）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部健司
12	医療と性	社会、セクシュアリティ、性	服部健司
13	ケース・スタディ（6）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議	服部健司
14	よい死	死の準備教育は必要かー「よい死」はあるか	服部健司
15	ケース・スタディ（7）	医療倫理ケースドラマ視聴・討議、まとめ	服部健司

教科書	服部健司・伊東隆雄『医療倫理学のABC』メヂカルフレンド社(2012)
参考書	

科目名	医療運営・管理学特論	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	太田加世 柴山勝太郎	単位	2	必修・選択	選択

目的	<p>【太田】医療制度が看護現場に及ぼす様々な影響を理解した上での、病院運営、看護組織運営を理解できる</p> <p>【柴山】わが国の病院医療について歴史的背景とともに病院医療が抱える課題を6つの視点から考察する</p>
学習到達目標	<p>【太田】医療制度のおおよそを理解し、その中で病院経営の在り方、看護組織の運営の在り方について、提案できること</p> <p>【柴山】わが国の病院医療の現状及び将来展望について理解を深める</p>
成績評価方法	レポート、平常点

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
	【太田加世】		
1	社会保障制度と看護	社会保障制度の概要を理解し、看護を取りまく状況を検討する	太田 加世
2	医療保険制度	医療保険制度を理解し、その問題点を検討する	太田 加世
3	医療制度	最近の医療制度改革を理解し、看護への影響を検討する	太田 加世
4	医療提供体制	看護職の人的資源の確保と専門職としての役割について検討する	太田 加世
5	同上		
6	診療報酬制度	診療報酬制度を理解し、その課題を検討する	太田 加世
7	同上		
8	介護保険制度	介護保険制度が医療に及ぼしている影響を検討する	太田 加世
9	トピックス	その時の時事課題について検討する	太田 加世

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
	【柴山勝太郎】	<p>近年、交通・通信手段の発達により医療にかかわる知識や技術の進歩には目覚ましいものがあるが、人々の生活と密着した文化である医療提供体制には試行錯誤の歴史が必要。西洋医学には、2000年の西洋文明で培われた歴史がある。</p> <p>わが国は、明治時代に在来の漢方に代えて西洋医学を導入しましたが、その歴史は僅か百数十年に過ぎない。ゼロから始まったわが国の病院医療は、OECDの統計によれば欧米先進国と大きな開きがあり、発展途上にあると言っても過言ではない。終戦後、昭和23年に医療法を制定。その後、わが国は昭和30年代から高度経済成長期を迎え、国民医療費はGDPと並行し増加の一途をたどった。平成2年以降はバブル経済の崩壊、経済成長の停滞、高齢化社会の到来を目前にして医療提供体制の見直しが必要になった。国は、昭和60年の第一次医療法改正を皮切りに、5回の法改正を行い強力に医療政策の舵を切っている。以上、わが国の病院医療が抱える課題につき6つの視点から考察する。</p>	
1	病院医療の歴史	わが国では、明治時代の西洋医学導入によりスタートした病院医療はまだ歴史が浅く発展途上である。2000年の西洋文明に育まれた欧米諸国の病院医療には学ぶところが多い	柴山 勝太郎
2	病院医療とマンパワー	病院は医師を中心とする専門職の集合体からチーム医療を主体とする有機的組織に進化している	柴山 勝太郎
3	病院の経営	病院では、健全経営が自立の前提	柴山 勝太郎
4	病院の設備	病院には、提供する医療サービスに相応しい設備・機器を整備する不断の努力が求められる	柴山 勝太郎
5	医療をとりまく環境	経済成長の終息と少子高齢化社会の到来	柴山 勝太郎
6	社会保障の理念	社会におけるセフティーネットとしての医療	柴山 勝太郎

教科書	【太田】 使用せず 【柴山】 資料配布 (パワーポイント使用)
参考書	【柴山】 ①日本の医療－制度と政策－ 島崎 謙治 東京大学出版会 ②社会的共通資本としての医療 宇沢 弘文・鴨下 重彦 東京大学出版会 ③医療改革 川渕 孝一 東洋経済新報社

科目名	人体の構造と機能学特論	学年	1 ・ 2	前期・後期	前 期
担当教員	小林 功 木村 朗 浅見 知市郎	単 位	2	必修・選択	選 択

目 的	人体の構造、および環境との関係を機能についての知識をより深め、それら知識を看護・リハビリテーション臨床における現象の理解と実践に生かしていく筋道を組み立てる力を養う
学習到達目標	1) 基礎教育で学んだ人体の構造機能の知識を看護・リハビリテーションの実践にどう活かしてきたかを振り返りながら、人体の構造、および環境との関係を機能についてより深い知識を獲得する 2) それら知識を看護・リハビリテーション臨床における現象の理解と実践に生かしていく筋道を組み立てる力が高まる
成績評価方法	出席状況、平常点、課題レポートを以て評価する

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	人体の構能・生理	人体の生理学的機能の特徴	小林 功
2	人体の構造・生理	人体の生理学的機能の特徴	小林 功
3	環境と生体機能	自然環境と生体機能	小林 功
4	消化器疾患	消化器系の病理	小林 功
5	呼吸器疾患	呼吸器疾患の病理	小林 功
6	循環器疾患	心血管障害の病理	小林 功
7	自己免疫疾患	自己免疫の機序	小林 功
8	脳血管障害	脳血管障害の病理	小林 功
9	神経疾患	神経系の病理	小林 功
10	口腔・歯科疾患Ⅰ	口腔とその周辺の解剖・生理	浅見 知市郎
11	口腔・歯科疾患Ⅱ	歯科疾患	浅見 知市郎
12	人体機能学の実践Ⅰ	身体活動と人体適応の実践	木村 朗
13	人体機能学の実践Ⅱ	身体活動と呼吸循環機能の実践	木村 朗
14	人体機能学の実践Ⅲ	身体活動と代謝の実践	木村 朗
15	人体の構造・機能の相関	人体の巧緻性序論	小林 功

教科書	
参考書	肥満・肥満症の指導マニュアル第2版、メタボリックシンドローム実践マニュアル、高齢者運動処方ガイドライン、アダプティッド・スポーツの科学、運動処方の指針、慢性疾患を有する人への運動指導テキスト、ネッター解剖学アトラス

科目名	加齢医学特論	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	小林 功 栗田 昌裕 木村 朗 浅見 知市郎	単位	2	必修・選択	選択

目的	基礎教育における、出生から死亡に至るまでの加齢過程で生じる現象、加齢と生活の蓄積に伴って生じる生活習慣病や知的機能の変化、およびその予防や健康改善の理解・知識をより精緻に発展させる。
学習到達目標	1. 加齢過程で生じる現象の理解、臨床実践を発展させる知識が深まる 2. 生活習慣病とその予防・改善についての理解、臨床実践を発展させる知識が深まる 3. 加齢に伴う知的機能の変化と改善についての理解、臨床実践を発展させる知識が深まる
成績評価方法	出席状況、平常点、課題レポートを以て評価する

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	加齢過程で生じる現象 I	受精から始まるヒトの一生の発達と加齢過程 老化の機序	小林 功
2	高齢者の疾病	老年病の臨床と高齢者特有の症候	小林 功
3	高齢者の認知機能	高齢者の認知機能の特徴	小林 功
4	生活習慣病学	生活習慣病の概念	小林 功
5	肥満学	内臓脂肪と皮下脂肪、アディポサイトカイン インスリン抵抗性	小林 功
6	糖尿病学	診断、治療をめぐって	小林 功
7	メタボリックシンドローム	特定健診とその対策	小林 功
8	知的機能の発達と加齢の 伴う変化	知能の生涯発達。流動的知能と結晶知能の違い。 記憶の仕組み。エピソード記憶と意味記憶。記憶の加齢 変化。人格と創造性の加齢変化	栗田 昌裕
9	知的機能の健康度の維持 改善 I	知的機能と情報処理機能の対応。知的機能と認知能力及 び運動機能との相関。認知機能訓練および運動機能訓練 による知的機能改善法とその効果	栗田 昌裕
10	知的機能の健康度の維持 改善 II	知的機能と自律機能及び感情の働きとの相関。自律機能 を活用した知的機能改善法と成果。感情情緒の制御による 知的機能改善法	栗田 昌裕
11	知的機能の健康度の維持 改善 III	知的機能と生活姿勢との相関。環境と習慣を活用した知的 機能改善法。記憶力と創造性の維持法	栗田 昌裕
12	老年医学 I	口腔の加齢	浅見 知市郎
13	老年医学 II	高齢者特有の歯科疾患	浅見 知市郎
14	障害をもつ人の運動と健康	障害者の身体活動とその効果	木村 朗
15	加齢における健康と疾病 について	加齢による健康障害に対する対処	小林 功

教科書	
参考書	肥満・肥満症の指導マニュアル第2版、メタボリックシンドローム実践マニュアル、高齢者運動処方ガイドライン、 アダプティッド・スポーツの科学、運動処方の指針、慢性疾患を有する人への運動指導テキスト

科目名	保健医療統計学特論	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	宮崎有紀子	単位	2	必修・選択	選択

目的	保健医療系分野における研究に必要な情報の収集・分析方法および統計的方法の基礎を理解する。統計的方法と研究デザイン、データ集計等について、講義および演習を通して学ぶ。
学習到達目標	統計的方法と研究デザインについて理解を深めることができる。また種々の統計的手法を理解し、研究過程での適用の判断ができる。
成績評価方法	授業参加度（60%）、レポート（40%）

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	オリエンテーション	疫学、統計学の歴史について学ぶ。	宮崎 有紀子
2	疾病頻度の指標	集団における疾病頻度を示す指標について学ぶ。	宮崎 有紀子
3	疫学研究方法（1）	代表的な疫学研究方法の概要を学ぶ。	宮崎 有紀子
4	疫学研究方法（2）	リスクの考え方と評価方法について学ぶ。	宮崎 有紀子
5	因果関係論	因果関係論、バイアス、交絡について学ぶ。	宮崎 有紀子
6	統計学の基礎	データの記述方法について学ぶ。	宮崎 有紀子
7	標本抽出法	母集団と標本の概念、および標本抽出法について学ぶ。	宮崎 有紀子
8	統計的推測	推定の考え方について学ぶ。	宮崎 有紀子
9	統計的検定	検定の考え方について学ぶ。	宮崎 有紀子
10	演習（1）	統計ソフトを用いた演習	宮崎 有紀子
11	相関と関連	2変量の関係を示す方法について学ぶ。	宮崎 有紀子
12	ノンパラメトリック統計	ノンパラメトリック統計の考え方について学ぶ。	宮崎 有紀子
13	演習（2）	統計ソフトを用いた演習	宮崎 有紀子
14	多変量解析	多変量解析の考え方、代表的な多変量解析の手法について学ぶ。	宮崎 有紀子
15	まとめ	レポート作成	宮崎 有紀子

教科書	印刷物配布
参考書	別途提示します。

科目名	家族社会学特論	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	内藤和美	単位	2	必修・選択	選択

目的	基礎教育で習得した家族に関する基本的知識をもとに、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識、とくに個人・家族と社会通念・社会慣習の相互関係に関する見識を深め、患者・対象者だけでなく家族を視野に入れた適切な保健医療サービスを提供し得る力を養う
学習到達目標	1) 家族、労働、ジェンダーを題材に、個人・家族と社会通念・社会慣習の相互関係、という視点を獲得し、その視点から現象を考察できるようになる 2) 個人・家族を社会資源とつなぎ・駆使・調整することによって、問題解決や QOL の向上をはかる力が高まる
成績評価方法	平常点と課題レポートの到達度を以て評価する

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	戦後日本社会の家族と労働とジェンダーの構造①	製造装置としての「性別分業」、一次生産物としての「社会資源の男性偏在」、二次生産物としての「女性問題」	内藤 和美
2	戦後日本社会の家族と労働とジェンダーの構造②	社会的労働と私生活労働の性別分業	内藤 和美
3	戦後日本社会の家族と労働とジェンダーの構造③	社会的労働内部の性別分業、2つの分業の再生産関係	内藤 和美
4	戦後日本社会の家族と労働とジェンダーの構造④	女性問題—「女性に対する暴力」を具体例に	内藤 和美
5	家族機能の破綻とその解決援助①	ドメスティックバイオレンスはどのような問題か	内藤 和美
6	家族機能の破綻とその解決援助②	ドメスティックバイオレンスの解決支援	内藤 和美
7	家族機能の破綻とその解決援助③	DVD 視聴	内藤 和美
8	家族機能の破綻とその解決援助④	児童虐待とはどのような問題か 調査結果から 児童虐待とドメスティック・バイオレンス	内藤 和美
9	家族機能の破綻とその解決援助⑤	児童虐待への対応—予防、発見、危機介入（初期対応）、問題解決のための長期的対応	内藤 和美
10	家族機能の破綻とその解決援助⑥	児童虐待への対応の鍵概念—自己肯定感情、ネットワーク、児童虐待防止法	内藤 和美
11	ケアとジェンダー①	「ケアすること」の女性偏在の意味	内藤 和美
12	ケアとジェンダー②	主婦という制度、「母性」規範	内藤 和美
13	家族、労働、性別の再編—より公正で合理的な秩序へ①	家族、労働、性別の再編—より公正で合理的な社会像	内藤 和美
14	家族、労働、性別の再編—より公正で合理的な秩序へ②	ワークライフバランス、家事労働のゆくえ	内藤 和美
15	まとめ	まとめ	内藤 和美

教科書	使用しない（プリントによる）
参考書	信田さよ子：それでも家族は続く：カウンセリングの現場で考える。NTT 出版, 2012 千田有紀：日本型近代家族—どこから来てどこへ行くのか。勁草書房, 2011 柏木恵子：父親になる、父親をする：家族心理学の視点から。岩波ブックレット；No. 811, 2011

科目名	教育学	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	横井利男	単位	2	必修・選択	選択

目的	保健医療分野を担う人材の育成にたずさわる教育者として必要な「教育」に関わる資質・能力を高めることを目的とする。
学習到達目標	1) 「教育」の一般的原理と教育内容や方法についての知識・教養を身につける 2) 成人を対象にした教育について理解する 3) 保健医療分野の教育が抱える問題について関心を持ち解決しようとする態度を身につける
成績評価方法	出席状況、平常点、課題レポートを以て評価する

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	教育原理	教育の目的・理念 教育思想	横井利男
2		教育の場 教育の内容 学力	横井利男
3		学習意欲 動機付け	横井利男
4		発達段階 発達課題	横井利男
5	成人の教育	ペダゴジー アンドラゴジー	横井利男
6		行動主義 認知主義	横井利男
7	保健医療専門職の教育	人間性の教育 態度の教育 個性	横井利男
8		知識・理解教育 問題解決能力の教育	横井利男
9		教師中心の教育 学生中心の教育	横井利男
10	指導方法	目標 方策 S P I C E Sモデル	横井利男
11		臨床教育	横井利男
12		フィードバック	横井利男
13	評価	評価の方法	横井利男
14		総括的評価 形成的評価	横井利男
15	まとめ		横井利男

教科書	使用しない
参考書	授業の中で必要に応じて紹介する

科目名	応用英語	学年	1・2	前期・後期	前期
担当教員	杉田雅子	単位	1	必修・選択	選択

目的	研究に必要な情報・知識を得るための英文読解力と、各自の研究成果を英語で表現する力の養成。音声面では正しい発音・アクセントで英文が読める力の養成。
学習到達目標	1) 基礎的英文法を確認しながら構文を分析し、英語文献を正しく読み取る力が高まる 2) 読み取った内容から論旨を把握し、要約する力が高まる 3) 運用できる専門用語が増える 4) 英文を正しい発音、アクセントで読む力が高まる
成績評価方法	授業での課題の発表状況と平常点を以て評価する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	医療・健康に関する英文を読む①	Osteoporosis についての文献を読む。	杉田 雅子
2	医療・健康に関する英文を読む②	Rehabilitation についての文献を読む。	杉田 雅子
3	医療・健康に関する英文を読む③	Stress についての文献を読む。	杉田 雅子
4	医療・健康に関する英文を読む④	Risk Management についての文献を読む。	杉田 雅子
5	医療・健康に関する英文を読む⑤	Ethical Issues についての文献を読む。	杉田 雅子
6	医療・健康に関する英文を読む⑥	Changes in Sleep Patterns in COPD についての文献を読む。	杉田 雅子
7	医療・健康に関する英文を読む⑦	Changes in Sleep Patterns in COPD についての文献を読む。	杉田 雅子
8	医療・健康に関する英文を読む⑧	Confusion についての文献を読む。	杉田 雅子
9	医療・健康に関する英文を読む⑨	Confusion についての文献を読む。	杉田 雅子
10	医療・健康に関する英文を読む⑩	Communicating with Infants についての文献を読む	杉田 雅子
11	医療・健康に関する英文を読む⑪	Communicating with Infants についての文献を読む	杉田 雅子
12	Abstract の読み方、書き方	実際の論文の abstract を読み、書き方を説明する。	杉田 雅子
13	研究論文を読む①	A Full Research Article を読む。	杉田 雅子
14	研究論文を読む②	A Full Research Article を読む。	杉田 雅子
15	研究論文を読む③	A Full Research Article を読む。	杉田 雅子

*受講生の専門によって、読む文献を変更する可能性がある。

教科書	使用しない（プリントによる）
参考書	英和辞典、英英辞典、 飯田恭子：『カタカナでわかる医療英単語』、医学書院、2005年。 飯田恭子、平井美津子：『アタマとオシリでわかる医療英単語』、医学書院、2006年。

科目名	保健学特別セミナー	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	真砂涼子 江口勝彦 高橋正明 藤田清貴 牛込三和子 鈴木珠水 酒井美絵子 早川有子 松澤正 木村朗 伊藤まゆみ 小林信 矢島正榮 小林亜由美	単位	2	必修・選択	必修

目的	保健学各領域の最新の研究動向と争点や課題を知り、それらの知識・情報を各自の研究のテーマや視点や分析概念や方法の具体的検討に役立てる。
学習到達目標	保健学各領域の最新の研究動向と争点や課題を知り、それらを活用して、各自の研究のテーマや視点や分析概念や方法の具体的検討が進む。
成績評価方法	出席状況、平常点、課題レポートを以て評価する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	基礎看護学	基礎看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	真砂 涼子
2	運動生理学	運動生理学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	江口 勝彦
3	運動学Ⅱ	運動学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	高橋 正明
4	運動学Ⅱ	第3回の講義を踏まえた討論、演習を行なう	高橋 正明
5	臨床検査学	臨床検査学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	藤田 清貴
6	成人看護学Ⅰ	成人看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	牛込 三和子
7	成人看護学Ⅱ	成人看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	鈴木 珠水
8	成人看護学Ⅲ	成人看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	酒井 美絵子
9	母子看護学	母子看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	早川 有子
10	物理療法学	物理療法学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	松澤 正
11	保健科学	保健科学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	木村 朗
12	老年看護学	老年看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	伊藤 まゆみ
13	精神看護学	精神看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する	小林 信
14	地域看護学Ⅰ	地域看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する。また、看護教育学についても触れる	矢島 正榮
15	地域保健学Ⅱ	地域看護学の最新の研究動向と争点や課題について講義する。また、看護教育学についても触れる	小林 亜由美

教科書	使用しない
参考書	山手茂：園田恭一：保健・医療・福祉の研究・教育・実践. 東信堂、2007 イアン・K. クロンビー：津富宏 医療専門職のための研究論文の読み方：批判的吟味がわかるポケットガイド. 金剛出版、2007

科目名	基礎看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	真砂涼子 上星浩子	単位	2	必修・選択	選択

目的	看護独自の援助法（看護技術）に関する研究の動向や課題について理解する。さらに、看護援助の効果について総合的に分析・評価するための最新の知見と新たな介入法の開発の課題について理解する。
学習到達目標	1) 人間・環境・健康・看護を探究する看護学の研究の動向や課題について理解する。 2) 看護実践の効果を科学的に検証し、新しい看護介入方法の開発につながる研究方法並びに人間関係を基盤とする看護現象の分析に関する研究方法を学ぶ。
成績評価方法	課題に関するプレゼンテーション及びレポート

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	オリエンテーション	オリエンテーション	真砂 涼子
2	基礎看護学領域の動向と課題 I	基礎看護学と看護技術について	真砂 涼子
3	基礎看護学領域の動向と課題 II	看護技術開発と看護技術研究の動向	真砂 涼子
4	基礎看護学領域の動向と課題 III	基礎看護学に関連する国内外の研究について	真砂 涼子
5	感覚機能に働きかける看護実践の研究動向 I	看護学の視点における生活環境刺激と生体反応	真砂 涼子
6	感覚機能に働きかける看護実践の研究動向 II	感覚機能による情動反応を促す看護療法の技術に関する研究	真砂 涼子
7	看護技術に関する研究動向 I	看護技術に関する経験・体験に関連する研究	上星 浩子
8	看護技術に関する研究動向 II	看護場面での看護師の認識に関連する研究	上星 浩子
9	基礎看護学領域の研究動向 I	基礎看護学に関連する研究の現状（1）	真砂 涼子・上星 浩子
10	基礎看護学領域の研究動向 II	基礎看護学に関連する研究の現状（2）	真砂 涼子・上星 浩子
11	基礎看護学領域の研究動向 III	基礎看護学に関連する研究の現状（3）	真砂 涼子・上星 浩子
12	基礎看護学領域の研究動向 IV	基礎看護学に関連する研究の現状（4）	真砂 涼子・上星 浩子
13	基礎看護学領域の研究動向 V	基礎看護学に関連する研究の現状（5）	真砂 涼子・上星 浩子
14	基礎看護学領域の研究動向 VI	基礎看護学に関連する研究の現状（6）	真砂 涼子・上星 浩子
15	基礎教育における課題	基礎教育における基礎看護学の課題	真砂 涼子・上星 浩子

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	基礎看護学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	真砂涼子 上星浩子	単位	2	必修・選択	選択

目的	基礎看護学特論で理解した看護援助の効果について課題別に文献考査し、先行研究の批判的考察を行い、今後の課題について演習する。
学習到達目標	研究課題を見出し、文献レビューを通して、研究課題に適した研究手法の選択や研究の進め方を实际的に理解し、個別の具体的な課題に関する研究計画書を作成する。
成績評価方法	各自の設定した課題に基づく研究計画の作成過程及び研究計画書により総合的に評価する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	研究課題の検討Ⅰ	オリエンテーション、看護学領域と学際領域の研究課題	真砂 涼子・上星 浩子
2	研究課題の検討Ⅱ	研究テーマの探索	真砂 涼子・上星 浩子
3	研究課題の検討Ⅲ	文献検索と整理、研究論文のクリティークの方法	真砂 涼子・上星 浩子
4	研究課題の検討Ⅳ	研究課題と研究方法（１）	真砂 涼子・上星 浩子
5	研究課題の検討Ⅴ	研究課題と研究方法（２）	真砂 涼子・上星 浩子
6	研究課題の検討Ⅵ	研究における倫理面の検討	真砂 涼子・上星 浩子
7	研究課題の検討Ⅶ	研究課題に関連する文献レビュー（１）	真砂 涼子・上星 浩子
8	研究課題の検討Ⅷ	研究課題に関連する文献レビュー（２）	真砂 涼子・上星 浩子
9	研究課題の検討Ⅸ	研究課題に関連する文献レビュー（３）	真砂 涼子・上星 浩子
10	研究計画立案Ⅰ	研究論文の作成と研究成果の公表	真砂 涼子・上星 浩子
11	研究計画立案Ⅱ	研究計画（１）	真砂 涼子・上星 浩子
12	研究計画立案Ⅲ	研究計画（２）	真砂 涼子・上星 浩子
13	研究計画立案Ⅳ	研究計画（３）	真砂 涼子・上星 浩子
14	研究計画立案Ⅴ	研究計画（４）	真砂 涼子・上星 浩子
15	研究計画立案Ⅵ	研究計画（５）	真砂 涼子・上星 浩子

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	基礎理学療法学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	高橋正明 江口勝彦	単位	2	必修・選択	選択

目的	理学療法学研究に資する基礎理学療法学に関する知識の滋養・概念の整理
学習到達目標	人体における基本的運動・動作を力学的に説明できること。このことを理学療法教育において教えるための授業計画を立案できること。PT関連の研究文献を論理的かつ批評的に読めること。PT関連領域を研究の現状と今後について説明できること。
成績評価方法	授業への参加状況・報告による。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	コースオリエンテーション		高橋正明・江口勝彦
2	基礎運動学特論 1	単関節・多関節運動における生体力学	高橋正明
3	基礎運動学特論 2	基本的・動作における生体力学	高橋正明
4	基礎運動学特論 3	授業内容の構築。獲得すべき能力と到達目標	高橋正明
5	基礎運動学特論 4	寝返り動作分析を教えるための授業到達目標	高橋正明
6	基礎運動学特論 5	立ち上がり動作分析を教えるための授業到達目標	高橋正明
7	基礎運動学特論 6	歩行動作分析を教えるための授業到達目標	高橋正明
8	基礎理学療法研究入門 1	文献・論文の読み方 1	江口勝彦
9	基礎理学療法研究入門 2	文献・論文の読み方 2	江口勝彦
10	基礎理学療法研究入門 3	論理学入門 1	江口勝彦
11	基礎理学療法研究入門 4	論理学入門 2	江口勝彦
12	基礎理学療法研究入門 5	基礎理学療法各領域に関する研究の現状	江口勝彦
13	基礎理学療法研究入門 6	基礎理学療法各領域に関する研究の現状	江口勝彦
14	基礎理学療法学潮流 1	基礎理学療法学研究的潮流 1	高橋正明
15	基礎理学療法学潮流 2	基礎理学療法学研究的潮流 2	江口勝彦

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	基礎理学療法学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	高橋 正明 江口 勝彦	単位	2	必修・選択	選択

目的	各院生の研究主題に関連し、身体の動作、特に関節運動とバランス戦略に関する内外の先行研究、理学療法の対象となる疾患の病態と姿勢・動作との関連について検証し、さらに、最新の知見について検証・演習し研究計画を段階を追って作成する。あるいは、筋・呼吸・循環・代謝等の生理学に関する内外の先行研究、理学療法の対象となる疾患の病態と筋・呼吸・循環・代謝等の生理との関連について検証し、さらに、最新の知見について検証・演習し研究計画を段階を追って作成する。
学習到達目標	1) 身体の姿勢・動作・呼吸・循環に関する現在の研究動向・トピックスがわかる。 2) 自らの研究計画書を完成させる。
成績評価方法	演習による研究計画作成のプロセス及び成果により総合的に判定する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	コースオリエンテーション	基礎理学療法学演習に関するオリエンテーション	江口 勝彦・高橋 正明
2	姿勢と動作 I	関節運動に関する研究	高橋 正明
3	姿勢と動作 II	バランス戦略に関する研究	高橋 正明
4	呼吸と循環 I	筋・呼吸・循環・代謝等の生理学に関する研究	江口 勝彦
5	呼吸と循環 II	筋・呼吸・循環・代謝等の理学療法に関する解析と評価方法に関する研究	江口 勝彦
6	研究計画 I	研究計画の要件、研究デザイン、実験計画	江口 勝彦・高橋 正明
7	文献購読 I	院生 発表	江口 勝彦・高橋 正明
8	研究計画 II	対象と倫理的配慮、予算計画とスケジュール	江口 勝彦・高橋 正明
9	文献購読 II	院生発表	江口 勝彦・高橋 正明
10	研究計画 III	研究計画中間発表	江口 勝彦・高橋 正明
11	文献購読 III	院生発表	江口 勝彦・高橋 正明
12	文献購読 IV	院生発表	江口 勝彦・高橋 正明
13	文献購読 V	院生発表	江口 勝彦・高橋 正明
14	文献購読 VI	院生発表	江口 勝彦・高橋 正明
15	研究計画発表会	研究計画最終確認	江口 勝彦・高橋 正明

教科書	未定 授業の中で紹介する。
参考書	授業の中で紹介する

科目名	成人看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	牛込三和子 酒井美絵子 鈴木珠水 萩原英子	単位	2	必修・選択	選択

目的	成人看護学の対象となる主な疾病の保健と医療の動向および医療対策、専門的看護実践の基礎となる、対象理解、アセスメント、看護技術、支援システム、家族支援について理解し、今日的課題をみいだす。また、成人看護学基礎教育のカリキュラムと臨地実習について現状と課題について理解を深める。
学習到達目標	1) 生活習慣病、がん、難病の保健と医療の動向を理解する。 2) 成人看護の動向を理解する。 3) 成人看護学基礎教育のカリキュラム、臨地実習について現状と課題を理解する。
成績評価方法	平常点（課題についてのプレゼンテーションと討議内容）、レポート。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	はじめに	成人看護学特論の展開について	牛込三和子・酒井美絵子 鈴木珠水・萩原英子
2	医療対策の動向 1	医療提供体制	牛込三和子
3	医療対策の動向 2	在宅医療	牛込三和子
4	保健と医療の動向 1	生活習慣病対策	鈴木珠水
5	成人看護の動向 1	慢性病看護	鈴木珠水
6	保健と医療の動向 2	がん対策	鈴木珠水・萩原英子
7	成人看護の動向 2	がん看護	鈴木珠水・萩原英子
8	成人看護の動向 3	看護と法律	酒井美絵子
9	成人看護の動向 4	看護におけるリスクマネジメント	酒井美絵子
10	成人看護の動向 5	看護管理 1	酒井美絵子
11	成人看護の動向 6	看護管理 2	酒井美絵子
12	保健と医療の動向 3	難病対策	牛込三和子
13	成人看護の動向 7	難病看護	牛込三和子
14	成人看護学基礎教育の現状と課題 1	カリキュラム	牛込三和子・酒井美絵子
15	成人看護学基礎教育の現状と課題 2	臨地実習	鈴木珠水・萩原英子

教科書	国民衛生の動向 2012 年版。その他必要に応じて提示する。
参考書	適宜紹介する

科目名	成人看護学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	牛込三和子 酒井美絵子 鈴木珠水 萩原英子	単位	2	必修・選択	選択

目的	がん、慢性病、難病等を持つ患者、急性期治療を要する患者等に対する最新の看護知見、社会支援システム、成人看護学教育のありかたについて、国内外の文献抄読、各自の実践報告などを通して、実践・研究の現状を学び、各自の研究計画を作成する。
学習到達目標	1) 文献抄読を通して成人看護学領域における研究の最新の知見を学ぶ。 2) 自己の研究課題を明確にし、研究計画書を作成できる。
成績評価方法	各自の設定した課題に基づいて立案した研究計画書

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	研究課題の検討Ⅰ	オリエンテーション、看護学領域と学際領域の研究課題	牛込三和子・酒井美絵子 鈴木珠水・萩原英子
2	研究課題の検討Ⅱ	研究テーマの探索	牛込三和子・酒井美絵子 鈴木珠水・萩原英子
3	研究課題の検討Ⅲ	文献検索と整理、研究論文のクリティークの方法	酒井美絵子、鈴木珠水
4	研究課題の検討Ⅳ	研究課題と研究方法 1.	酒井美絵子、鈴木珠水
5	研究課題の検討Ⅴ	研究課題と研究方法 2.	酒井美絵子、萩原英子
6	研究課題の検討Ⅵ	研究における倫理面の検討	酒井美絵子、萩原英子
7	研究課題の検討Ⅶ	研究課題に関連する文献レビュー1.	酒井美絵子、牛込三和子
8	研究課題の検討Ⅷ	研究課題に関連する文献レビュー2.	酒井美絵子、牛込三和子
9	研究課題の検討Ⅸ	研究課題に関連する文献レビュー3.	酒井美絵子、鈴木珠水
10	研究計画立案Ⅰ	研究論文の作成と研究成果の公表	酒井美絵子、鈴木珠水
11	研究計画立案Ⅱ	研究計画 1.	酒井美絵子、萩原英子
12	研究計画立案Ⅲ	研究計画 2.	酒井美絵子、萩原英子
13	研究計画立案Ⅳ	研究計画 3.	酒井美絵子、牛込三和子 鈴木珠水、萩原英子
14	研究計画立案Ⅴ	研究計画 4.	酒井美絵子、牛込三和子 鈴木珠水、萩原英子
15	研究計画立案Ⅵ	研究計画 5. 研究計画書の発表	酒井美絵子、牛込三和子 鈴木珠水、萩原英子

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	母子看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	早川有子 野田智子 中島久美子	単位	2	必修・選択	選択

目的	女性のライフステージ各期における健康問題と看護、小児各期の健康問題と看護について学ぶとともに、女性や子ども、家族をめぐる最新の知識と今日的課題を学ぶ。
学習到達目標	1. 母子保健、女性のライフステージ各期における健康問題の現状分析と看護支援のあり方、ならびに今日的課題を理解する。 2. 子どもと家族に対する健康段階に応じた成長発達支援、健康支援のあり方を理解する。
成績評価方法	分担課題についてのプレゼンテーションと討議、レポートを総合的に評価する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	母子の健康問題Ⅰ	ガイダンス 母子に関する今日的な課題1（国内）	早川 有子
2	母子の健康問題Ⅱ	母子に関する今日的な課題2（国外）	早川 有子
3	母子の健康問題Ⅲ	母子に関する今日的な課題発表・討議	早川 有子
4	母子の健康問題Ⅳ	母子の感染症予防に関する研究（実験）	早川 有子
5	母子の健康問題Ⅴ	母子の感染症予防に関する研究（調査研究）	早川 有子
6	母性の健康問題Ⅰ	子ども虐待の背景と親子関係、子育て支援	中島 久美子
7	母性の健康問題Ⅱ	夫婦関係、妻への夫の関わりに関する研究1 （文献レビュー）	中島 久美子
8	母性の健康問題Ⅲ	夫婦関係、妻への夫の関わりに関する研究2 （質的研究）	中島 久美子
9	母性の健康問題Ⅳ	夫婦関係、妻への夫の関わりに関する研究3 （量的研究）	中島 久美子
10	子どもと家族をめぐる健康問題Ⅰ	地域における育児支援と小児看護	野田 智子
11	子どもと家族をめぐる健康問題Ⅱ	身体障害を抱える子どもと家族の現状1	野田 智子
12	子どもと家族をめぐる健康問題Ⅲ	身体障害を抱える子どもと家族の現状2	野田 智子
13	子どもと家族をめぐる健康問題Ⅳ	発達障害を抱える子どもと家族の現状1	野田 智子
14	子どもと家族をめぐる健康問題Ⅴ	発達障害を抱える子どもと家族の現状2	野田 智子
15	討議	学んだことを生かした全体討議（今後の課題含む）	早川 有子

教科書	指定せず
参考書	適宜紹介する

科目名	臨床理学療法学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	松澤正 鈴木学 木村朗	単位	2	必修・選択	選択

目的	理学療法学研究に資する臨床理学療法学に関する知識の滋養・概念の整理
学習到達目標	臨床理学療法に関する修士論文作成の資料の収集と整理
成績評価方法	授業への参加状況・報告による。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	コースオリエンテーション		松澤正・木村朗 鈴木学
2	臨床物理療法学特論 1	物理療法学特論 総論および各論	松澤正
3	臨床物理療法学特論 2	物理療法学特論 総論および各論	松澤正
4	臨床物理療法学特論 3	物理療法学特論 総論および各論	松澤正
5	臨床物理療法学特論 4	物理療法学特論 総論および各論	松澤正
6	臨床理学療法学特論 1	神経評価特論	鈴木学
7	臨床理学療法学特論 2	神経治療特論	鈴木学
8	臨床身体活動学特論 1	臨床身体活動学特論 総論および各論	木村朗
9	臨床身体活動学特論 2	臨床身体活動学特論 総論および各論	木村朗
10	臨床身体活動学特論 3	臨床身体活動学特論 総論および各論	木村朗
11	臨床身体活動学特論 4	臨床身体活動学特論 総論および各論	木村朗
12	臨床理学療法学特論 3	臨床思考教育特論	鈴木学
13	臨床理学療法学特論 4	臨床思考教育特論	鈴木学
14	臨床理学療法学潮流 1	臨床理学療法学研究の潮流 1	松澤正
15	臨床理学療法学潮流 2	臨床理学療法学研究の潮流 2	木村朗

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	平成 25 年度において使用可能なメディア等、授業の中で紹介する

科目名	臨床理学療法学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	松澤 正 木村 朗	単位	2	必修・選択	選択

目的	物理療法および運動療法に含まれる各種治療法についての物理学的・生理学的基礎、ならびに、それらの臨床応用に関して考証をおこなう。特に、生活の質を向上させるリハビリテーションに寄与するための治療手法や、保健医療福祉の各分野にわたる物理療法および運動療法の適用に関して考証をおこない、さらに、これらに係わる最新の知見を検証・演習する。また、物療療法機器および身体活動支援機器が身体や環境に与える影響とその計測・評価手法について考証し、機器使用時のリスク管理についても検討する。
学習到達目標	現在の物理療法機器および身体活動支援機器、その応用範囲、それらの研究動向についてわかり、理学療法の実践で応用できる。
成績評価方法	授業への参加状況・報告による。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	物理療法の基礎Ⅰ	物理療法の基礎研究（１）	松澤 正
2	物理療法の基礎Ⅱ	物理療法の基礎研究（２）	松澤 正
3	物理療法と身体Ⅰ	物理療法と身体に関する研究（１）	松澤 正
4	物理療法と身体Ⅱ	物理療法と身体に関する研究（２）	松澤 正
5	物理療法の応用Ⅰ	物理療法の臨床応用に関する研究（１）	松澤 正
6	物理療法の応用Ⅱ	物理療法の臨床応用に関する研究（２）	松澤 正
7	運動療法の疫学Ⅰ	身体活動と運動療法の疫学研究（１）	木村 朗
8	運動療法の疫学Ⅱ	身体活動と運動療法の疫学研究（２）	木村 朗
9	身体活動開発機器Ⅰ	臨床身体活動開発機器の基礎研究（１）	木村 朗
10	身体活動開発機器Ⅱ	臨床身体活動開発機器の基礎研究（２）	木村 朗
11	身体活動開発機器Ⅲ	臨床身体活動開発機器の応用研究（１）	木村 朗
12	身体活動開発機器Ⅳ	臨床身体活動開発機器の応用研究（２）	木村 朗
13	近年の運動療法	身体活動と運動療法の動向（１）	木村 朗
14	近年の運動療法	身体活動と運動療法の動向（２）	木村 朗
15	理学療法と保健	保健領域における物理療法と運動療法	木村 朗

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	老年看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	伊藤まゆみ	単位	2	必修・選択	選択

目的	老年看護の実践の基礎となる、対象理解、支援・評価方法の理論と技術、高齢者医療を取り巻く制度、政策、及び今日的課題を学ぶ。さらに老年看護学の教育方法と研究指導方法についての理解を深める。
学習到達目標	1) 高齢者の加齢に伴う変化と、からだ・こころの健康問題について理解する。 2) 高齢者看護の最新の知識とエビデンスに基づいた看護支援方法について理解する。 3) 老年看護学の教育方法、研究指導方法に関する理解を深め、自己の課題を見いだす。
成績評価方法	講義への出席状況、分担課題についてのプレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	コースガイダンス	コース概要、学習の進め方、受講にあたっての自己課題	伊藤まゆみ
2	老年看護学特論の概要	老年看護学の概念、老年看護学の歴史的変遷	伊藤まゆみ
3	老年期の発達理論	老化理論とエイジング、老年期の発達理論の新しい考え方	伊藤まゆみ
4	高齢者の健康問題	からだ・こころ・社会的側面からみた高齢者特有の健康問題	伊藤まゆみ
5	健康増進活動とメンタルヘルス	高齢者における健康増進活動の可能性とその効果、高齢者とうつ病	伊藤まゆみ
6	高齢者の健康障害と看護Ⅰ	急性・慢性の健康障害	伊藤まゆみ
7	高齢者の健康障害と看護Ⅱ	せん妄	伊藤まゆみ
8	高齢者の健康障害と看護Ⅲ	認知症	伊藤まゆみ
9	高齢者のエンドオブライフ・ケア	人生の最終末期における看護	伊藤まゆみ
10	高齢者をとりまく社会、制度・政策と看護①	超高齢社会における制度・政策と看護への期待	柏木とき江
11	高齢者をとりまく社会、制度・政策と看護②	地域における認知症ケアシステムの構築	柏木とき江
12	高齢者ケアの倫理的課題	高齢者と人権、成年後見制度、高齢者虐待、身体拘束	伊藤まゆみ
13	高齢者と家族	高齢者ケアにおける家族のとらえ方、家族支援	伊藤まゆみ
14	老年看護学教育Ⅰ	看護基礎教育における老年看護学教育	伊藤まゆみ
15	老年看護学教育Ⅱ	現任教育における老年看護学教育	伊藤まゆみ

教科書	なし
参考書	エイジング心理学、谷口幸一・佐藤眞一編著、北大路房

科目名	老年看護学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	伊藤まゆみ	単位	2	必修・選択	選択

目的	老年看護学に関する課題とその動向を概説し、自己の研究課題を探求する。また、課題探求のための具体的な計画書が作成できる。
学習到達目標	1) 文献レビュー、実践活動の分析から自己の研究課題を見いだすことができる。 2) 課題探求のための研究デザイン、方法について追求できる。 3) 研究計画書が作成できる。
成績評価方法	出席状況、文献レビュー・実践活動からの課題についてのプレゼンテーションとレポート、研究計画書の作成過程を総合的に評価する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	コースガイダンス	授業の進め方、研究計画立案から論文作成まで	伊藤まゆみ
2	研究の進め方Ⅰ	研究課題の探索、文献検索と抄読の方法	伊藤まゆみ
3	研究の進め方Ⅱ	研究方法について①	伊藤まゆみ
4	文献レビューⅠ	研究課題に関連した文献レビュー	伊藤まゆみ
5	研究の進め方Ⅲ	研究方法について②	伊藤まゆみ
6	文献レビューⅡ	研究課題に関連した文献レビュー	伊藤まゆみ
7	研究の進め方Ⅳ	研究における倫理の問題	伊藤まゆみ
8	文献レビューⅢ	研究課題に関連した文献レビュー	伊藤まゆみ
9	文献レビューⅣ	文献レビューのまとめ	伊藤まゆみ
10	研究計画Ⅰ	研究計画書の作成方法	伊藤まゆみ
11	研究計画Ⅱ	研究課題の焦点化、研究目的	伊藤まゆみ
12	研究計画Ⅲ	研究デザイン・方法	伊藤まゆみ
13	研究計画Ⅳ	研究実施計画	伊藤まゆみ
14	研究計画Ⅴ	倫理面の検討	伊藤まゆみ
15	研究計画Ⅵ	研究計画の発表と討議	伊藤まゆみ

教科書	看護研究 step by step 黒田裕子著、学研
参考書	看護研究－原理と方法第2版、D.F. ポーリット著、近藤潤子監訳、医学書院 看護研究計画書－作成の基本ステップ、小玉香津子訳、日本看護協会出版会

科目名	精神看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	小林 信	単位	2	必修・選択	選択

目的	ひとのからだところの理解を深め、精神看護の実践の基礎となる対象理解のための理論、実践の場で行う援助技術について学ぶ。また高齢者のところの健康を支援するための行政、地域社会の役割と課題について理解を深める。さらに精神看護学の教育方法と研究指導方法についての理解を深める。
学習到達目標	1) ひとのところの健康と発達理論、精神看護の基礎理論について理解する。 2) 精神看護の実践に必要な援助技術、医療制度・政策の現状と課題について理解する。 3) 精神看護学の教育方法、研究指導方法に関する理解を深め、自己の課題を見いだす。
成績評価方法	講義への出席状況、分担課題についてのプレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	精神看護学特論の概要	精神看護学の概念及び精神看護学と研究をとりまく最近の動向	小林 信
2	からだところの健康	精神看護学における健康の概念	小林 信
3	ところの発達理論Ⅰ	精神力動理論（フロイト：心の機能と構造）	小林 信
4	ところの発達理論Ⅱ	精神力動理論（エリクソン：発達課題）	小林 信
5	精神看護の基礎理論Ⅰ	セルフケアモデル	小林 信
6	精神看護の基礎理論Ⅱ	地域ケアモデル（ACT-J）	小林 信
7	精神看護の基礎理論Ⅲ	危機理論（アギュララ）	小林 信
8	精神看護の基礎理論Ⅳ	生物学モデル（精神科薬物療法）	小林 信
9	リエゾン精神看護	リエゾン精神医学の基礎と看護への適用	小林 信
10	精神看護の援助技術Ⅰ	コンサルテーション技術	小林 信
11	精神看護の援助技術Ⅱ	高感情表出と家族支援	小林 信
12	精神保健福祉政策	現状と課題	小林 信
13	救急医療	精神科救急の現状と課題	小林 信
14	研究の動向と課題	精神看護学研究の動向と課題	小林 信
15	精神看護学教育	教育の理論と方法、展開、評価	小林 信

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配付する）
参考書	適宜紹介する

科目名	精神看護学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	小林 信	単位	2	必修・選択	選択

目的	精神看護学の実践における「治療的関わり」を訓練するための「再構成」の方法論についての理解を深める。また、精神看護学に関する課題とその動向を概観し、精神看護実践における研究課題を探求する。さらに、実践の質向上のために必要な研究テーマ及び研究方法について探求する。
学習到達目標	1) 精神看護実践のための「再構成」の活用方法を習得する。 2) フィールドワーク、ケーススタディ、文献レビューを実践、報告できる。 3) 自己の研究課題を見だし、課題探求のための計画を具体化できる。
成績評価方法	出席状況、「再構成」演習の成果、フィールドワーク・ケーススタディ・文献レビューの課題についてのプレゼンテーションとレポート、研究計画書の作成過程を総合的に評価する。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1		※本年度開講せず	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

教科書	
参考書	

科目名	高齢者理学療法学特論	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	浅田春美 加藤仁志	単位	2	必修・選択	選択

目的	身体とその運動機能の加齢変化，それらによる生活の変容について概説するとともに、高齢者の生活自立度，生活の質などの評価方法，研究方法について教授する。高齢者に関する制度における理学療法士の役割について学ぶことを目的に、それぞれの学生が身近な自治体における介護予防事業を調査し報告・討論することでその理解を深める。
学習到達目標	1) 日本における高齢者の実態を把握し、個々の高齢者の身体・運動機能の加齢変化とそれによる生活の変容がわかる。 2) 介護保険制度や介護予防事業などでの理学療法士の役割または理学療法介入について理解する。また、それらの評価方法・研究方法がわかる。
成績評価方法	授業への参加状況・報告による。

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	ガイダンス	ガイダンス	浅田 春美
2	日本における高齢者の実態（総論）	理学療法の対象となる高齢者の区分	浅田 春美・加藤 仁志
3	〃	老年症候群	浅田 春美・加藤 仁志
4	高齢者の評価	高齢者に関する評価	浅田 春美・加藤 仁志
5	〃	<運動機能・ADL・QOL・その他>	浅田 春美・加藤 仁志
6	各制度における理学療法の役割 1	介護保険制度の中での理学療法の役割・課題	浅田 春美・加藤 仁志
7	〃	<通所・入所>	浅田 春美・加藤 仁志
8	各制度における理学療法の役割 2	高齢者施策：介護予防事業での理学療法	浅田 春美・加藤 仁志
9	〃	<運動器，口腔・栄養，認知>	浅田 春美・加藤 仁志
10	〃	高齢者のバランス機能と動作	浅田 春美・加藤 仁志
11	〃	高齢者の運動機能評価	浅田 春美・加藤 仁志
12	課題報告・討論	各自治体における高齢者施策における理学療法士の役割 討論	浅田 春美・加藤 仁志
13	〃	〃	浅田 春美・加藤 仁志
14	まとめ	介護予防事業への介入（実践）	浅田 春美・加藤 仁志
15	〃	〃	浅田 春美・加藤 仁志

教科書	市橋則明編：運動療法学各論高齢者の機能障害に対する運動療法，文光堂，2010
参考書	授業の中で紹介する

科目名	地域看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	矢島正栄 小林亜由美 中下富子 斉藤玲子	単位	2	必修・選択	選択

目的	地域社会の健康レベル向上に関わる看護の理論と技術、対象別の地域看護実践方法、保健医療福祉の連携とシステム化について教授する。また、地域の健康問題の解決に必要な社会資源の開発と施策への反映、ヘルスプロモーションの推進における地域看護の役割について教授する。さらに、地域看護学教育の歴史と展望、地域看護学の基礎教育及び現任教育の役割と課題、地域看護管理について教授する。
学習到達目標	1) 地域社会の健康レベル向上に関わる看護の理論、ヘルスプロモーションの推進における地域看護の役割について理解できる。 2) 対象別の地域看護実践方法、保健医療福祉の連携とシステム化の意義と方法、地域の健康問題の解決に必要な社会資源の開発と施策への反映の方法がわかる。 3) 地域看護学教育の歴史をふまえた基礎教育及び現任教育の役割と課題がわかる。
成績評価方法	レポート

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	地域看護学の理念	地域看護学の理念	矢島 正栄
2	公衆衛生行政と地域看護	公衆衛生行政の現状と地域看護の役割	矢島 正栄
3	地域における保健師の活動	個人、家族、集団を対象とした地域看護の理論と技術	矢島 正栄
4	地域看護学教育	地域看護学の基礎教育及び現任教育の役割と課題	矢島 正栄
5	対象別地域看護実践方法 I	母子保健活動の展開方法、母子保健の現状と今後の課題	矢島 正栄
6	対象別地域看護実践方法 I	母子保健活動の展開方法、母子保健の現状と今後の課題	矢島 正栄
7	対象別地域看護実践方法 II	成人・高齢者保健活動の展開方法、成人・高齢者保健の現状と今後の課題	小林亜由美
8	対象別地域看護実践方法 II	成人・高齢者保健活動の展開方法、成人・高齢者保健の現状と今後の課題	小林亜由美
9	対象別地域看護実践方法 III	精神保健活動の展開方法、精神保健の現状と今後の課題	矢島 正栄
10	職域別地域看護実践方法 I	産業保健活動の展開方法、産業保健の現状と今後の課題	斉藤 玲子
11	職域別地域看護実践方法 II	学校保健活動の展開方法、学校保健の現状と今後の課題	中下 富子
12	地域看護管理	地域看護管理	矢島 正栄
13	地域看護学研究の動向	地域看護学に関する研究論文の抄読	矢島 正栄
14	地域看護学研究の動向	地域看護学に関する研究論文の抄読	矢島 正栄
15	地域看護学県急の動向	地域看護学に関する研究論文の抄読	矢島 正栄

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する

科目名	地域看護学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	矢島正栄 小林亜由美	単位	2	必修・選択	選択

目的	地域看護学に関する研究の動向を理解し、事故の研究課題を探索する。また、研究課題探求のための具体的な方法を理解する。
学習到達目標	1) 地域看護学研究に用いられる手法とその特質がわかる。 2) 地域看護学領域における研究の動向がわかる。 3) 自らの研究課題探求のために適切な研究デザインを選択し、研究計画を立案することができる。
成績評価方法	レポート

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	オリエンテーション	オリエンテーション	矢島 正栄・小林亜由美
2	研究の進め方Ⅰ	研究計画立案から論文作成まで	矢島 正栄・小林亜由美
3	研究の進め方Ⅱ	研究デザイン・研究方法の理解	矢島 正栄・小林亜由美
4	研究の進め方Ⅲ	研究デザイン・研究方法の理解	矢島 正栄・小林亜由美
5	文献抄読	研究課題に関連した文献の抄読	矢島 正栄・小林亜由美
6	文献抄読	研究課題に関連した文献の抄読	矢島 正栄・小林亜由美
7	文献抄読	研究課題に関連した文献の抄読	矢島 正栄・小林亜由美
8	文献抄読	研究課題に関連した文献の抄読	矢島 正栄・小林亜由美
9	研究計画の検討Ⅰ	研究課題・目的・研究デザイン	矢島 正栄・小林亜由美
10	研究計画の検討Ⅰ	研究課題・目的・研究デザイン	矢島 正栄・小林亜由美
11	研究計画の検討Ⅱ	研究方法	矢島 正栄・小林亜由美
12	研究計画の検討Ⅱ	研究方法	矢島 正栄・小林亜由美
13	研究計画の検討Ⅲ	研究実施計画	矢島 正栄・小林亜由美
14	研究計画の検討Ⅲ	研究実施計画	矢島 正栄・小林亜由美
15	研究計画の検討Ⅳ	研究計画の発表	矢島 正栄・小林亜由美

教科書	黒田裕子の看護研究 Step by Step (医学書院)
参考書	授業の中で紹介する

科目名	在宅看護学特論	学年	1	前期・後期	前期
担当教員	小笠原映子	単位	2	必修・選択	選択

目的	在宅ケアシステム構築に関する理論と方法について教授する。また、在宅看護に必要なアセスメント、ケアマネジメント、及びケアの評価の方法、在宅看護技術、在宅ケアにおける家族指導技術、在宅ケアチームの形成について教授する。また、在宅看護における看護管理の方法について教授する。さらに、在宅看護の基礎教育及び現任教育の現状と課題について教授する。
学習到達目標	1) 在宅看護技術の特質、家族に対する指導技術、在宅ケアマネジメントの意義と方法、在宅ケアシステム構築に関する理論と方法がわかる。 2) 在宅看護における看護管理の方法がわかる。 3) 在宅看護の基礎教育及び現任教育の現状と課題がわかる。
成績評価方法	レポート

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	在宅看護の基礎 I	在宅看護の考え方 (1)	小笠原映子
2	在宅看護の基礎 II	在宅看護の考え方 (2)	小笠原映子
3	在宅看護の基礎 III	在宅看護技術 (1)	小笠原映子
4	在宅看護の基礎 IV	在宅看護技術 (2)	小笠原映子
5	介護保険と在宅看護 I	介護保険と在宅看護 (1)	小笠原映子
6	介護保険と在宅看護 II	介護保険と在宅看護 (2)	小笠原映子
7	在宅看護の動向 I	呼吸器疾患の療養者に対する在宅看護の展開	梨木恵実子
8	在宅看護の動向 II	難病療養者に対する在宅看護の展開 (1)	友松幸子
9	在宅看護の動向 III	難病療養者に対する在宅看護の展開 (2)	中嶋馨子
10	在宅看護の動向 IV	小児の療養者に対する在宅看護の展開	堀美佐子
11	在宅看護の動向 V	在宅リハビリテーション	小川美由紀
12	在宅看護の動向 VI	退院調整	小笠原映子
13	在宅看護の動向 VII	在宅チームケア	小笠原映子
14	在宅看護学教育 I	看護基礎教育における在宅看護学教育	小笠原映子
15	在宅看護学教育 II	現任教育における在宅看護学教育	小笠原映子

教科書	指定せず (必要に応じて資料を配布する)
参考書	授業の中で紹介する

科目名	在宅看護学演習	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	小笠原映子	単位	2	必修・選択	選択

目的	在宅看護学に関する研究の動向を理解し、事故の研究課題を探求する。また、研究課題探求のための具体的な方法を理解する。
学習到達目標	1) 在宅看護学研究に用いられる手法とその特質がわかる。 2) 在宅看護学領域における研究の動向がわかる。 3) 自らの研究課題探求のために適切な研究デザインを選択し、研究計画を立案することができる。
成績評価方法	レポート

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
		※本年度開講せず	

教科書	
参考書	

科目名	地域理学療法学特論	学年	1	前期・後期	後期
担当教員	目黒力 蛭間基夫	単位	2	必修・選択	選択

目的	高齢者や身体障害者が地域での生活を維持・改善するために必要な住環境整備，交通整備，街づくりなどを中心に教授する。また，地域保健を実践するための関連職種とその役割，そのチームにおける理学療法士の役割，地域保健を実践するために必要な社会制度などについて教授する。また，これらを実現することの礎となる事柄，すなわち，高齢者や身体障害者の身体特性，特に視力や認知機能，高齢者および障害者の日常生活活動・住環境・外出時の移動・交通利用の実態と，それらを改善するためのデザイン手法（ユニバーサル・デザイン）や研究方法について教授する。
学習到達目標	1) 高齢者・身体障害者の生活に必要な住環境・交通・街についてわかる。 2) 地域保健における理学療法士の役割がわかり，実践のための自己の課題が明確になる。
成績評価方法	授業への参加状況・報告による

回数	テーマ	講義内容	担当教員名
1	環境Ⅰ	高齢者・身体障害者と生活	目黒力・蛭間基夫
2	環境Ⅱ	高齢者・身体障害者と住環境（1）	目黒力・蛭間基夫
3	環境Ⅲ	高齢者・身体障害者と住環境（2）	目黒力・蛭間基夫
4	環境Ⅳ	高齢者・身体障害者と街づくり（1）	目黒力・蛭間基夫
5	環境Ⅴ	高齢者・身体障害者と街づくり（2）	目黒力・蛭間基夫
6	社会制度	地域保健活動と社会制度	目黒力・蛭間基夫
7	人的環境Ⅰ	地域保健活動における関連職種の役割	目黒力・蛭間基夫
8	人的環境Ⅱ	地域保健活動における理学療法士の役割	目黒力・蛭間基夫
9	身体・認知能力Ⅰ	高齢者・身体障害者の身体機能と認知能力（1）	目黒力
10	身体・認知能力Ⅱ	高齢者・身体障害者の身体機能と認知能力（2）	目黒力
11	生活	高齢者・身体障害者の日常生活活動	目黒力
12	交通Ⅰ	高齢者・身体障害者と交通（1）	目黒力
13	交通Ⅱ	高齢者・身体障害者と交通（2）	目黒力
14	デザインⅠ	ユニバーサルデザイン（1）	目黒力
15	デザインⅡ	ユニバーサルデザイン（2）	目黒力

教科書	指定せず（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業の中で紹介する